

『男子少年院における「生命(いのち)の安全教育」について』

元福岡少年院長 渡辺 玲子

男子少年院には、強姦性交や強制わいせつ等の性犯罪を行って入院した人もいれば、特殊詐欺や窃盗、傷害、大麻等の薬物事案で入院している人もいます。前者は性犯罪を防止するためのプログラムを受けますが、後者については性に関する特別なプログラムが用意されている訳ではなく、各少年院で工夫した授業が行われたり、少年院の矯正教育全般の中で各自より良い生き方を学び取っていくような仕組みになっています。

しかしそういった人の中にも、女性に対し暴力的支配を行ったり、女性を商品のように扱う業務に従事したりしてきた人はいます。人と支配被支配ではない関係を築くことについて、教育を受ける機会を逸してきた人も少なくありません。

そんな中、在院者を対象に下記のような授業を実施し、意義があったので紹介します。

現在、福岡県では、性暴力対策アドバイザー派遣事業として、小・中・高校に講師を派遣し、出張授業が展開されています。本年度からは全ての公立の小中高校が対象です。学校での授業を受ける機会を逸しがちな少年院在院者に、同様の授業を必須で行うことは意義があると考えます。

また、少年院の法務教官が少年にとって日常の生活レベルで様々な価値規範のモデルとなっていることを考えると、受講する少年だけでなく、大人も共に受講し考える機会となることは、一層意義があると思います。

記

1 日時 令和4年3月15日

2 場所 福岡少年院

3 講座名 「SEXについて話そう！」

4 講座実施者

性暴力被害者支援センター・ふくおか 性暴力対策アドバイザー 本村講師 浦講師

5 受講者 在院者計29名（1回目11名 2回目18名）15歳から20歳までの男子

6 実施の経緯

令和3年12月、不祥事防止を目的として、本村講師による職員研修「性的同意について考える」を実施した。若年者を性的対象とすることの暴力性について考えてもらうというもの。

福岡少年院は、性犯罪を行った在院者に対し、局指定のプログラムを実施している。しかし性犯罪以外の事犯を行った在院者の中にも、性や暴力に関する考え方、男性観女性観に偏りのある人が見られることから、在院者全員に対して同様の授業を実施しようということになった。

7 実施要領

コロナ感染リスク低減のため、受講者を2グループに分け、2回に分けて実施。

講師がパワーポイントのスライドを示しながら、グループセッションを行ったり、自由に意見を述べたりする場を設け、参加者に考えてもらう授業とした。

8 講座の内容

(1)「境界線」の話

あなたのからだはあなたのもの あなたのこころもあなたのもの “自分を守る”って？

「境界線」には「からだの境界線」と「きもちや考え方の境界線」などいろいろある

「境界線」のピンチ どんな時に感じる？ 自分を守るために「イヤ」って言っている

「境界線」は自分を守る／相手を守る透明バリア

自分の「境界線」を大切にするように相手の「境界線」も意識してみる

「性の境界線」プライベートゾーン

2023年5月10日 衆議院内閣委員会 立憲民主党 堤かなめ

出典：渡辺玲子氏提供『男子少年院における「生命(いのち)の安全教育」について』

(2) 「性的同意」の話

- ・「性の境界線」をこえるとき、お互いの気持ちを確認することを「性的同意」というポイント①対等な関係の中で、言葉で、その都度、互いの気持ちを確認め合うこと②パートナー同士だったとしてもしなければいけないなんてことない③性的な行為をするしないを決めるのは自分自身
- ・YouTube上の動画「Consent – it's simple as tea (同意 – 紅茶のようにシンプル)」を使って(日本語吹替版は、函館性暴力防止対策協議会が作成し、性暴力の予防教育の場での活用されている。媒体での提供などのご相談は、北海道警察函館方面本部生活安全課まで)同意しているかどうかは人それぞれ受け止め方が違う
- ・「男らしく」「女らしく」という考え方に囚われていることが関係しているかも→人間らしく

(3) 「性暴力」の話

「性暴力」とは、あなたが望まない・同意のない性的行為や発言のこと
被害にあわれた方にどんなことが起こるか からだ・こころ・考え方の反応
性暴力の被害にあったときに選べること 逃げる 大人に相談する 病院や警察

9 在院者の反応

在院者には、講師の問いかけに対し、のびのびと思ったまま挙手して発言する人、じっと考えて発言せず他の意見を聞くだけの人もいた。発言は次々なされ、全体的に大変活発な授業になった。

10 在院者の感想

翌日受講者が提出した感想文は次のようなものだった。

- ・他人の気持ちだけでなく自分の気持ちも大事にしているんだと思った。
- ・「同意」について、「確認し合える関係を作ることが大事」と言われ、その時はよくわからなかったが、今考えると、「確認しあっても雰囲気や関係性が悪くならないような関係を作ることが大事」という意味だったんじゃないかと思う。そういった関係を築くことができないことも自分の非行の原因につながっているのかと思った。
- ・自分と相手の境界線って大切だと思った。振り返ってみると、自分がされて嫌だったことを人にしたこともあって、それは相手の境界線に勝手に入ってしまったのだと思う。また、男は自分の問題は自分で解決すべき、怖いと思っても強く振る舞うべき、といった思いがある。変なプライドを捨てて自分に素直になることも大切だと気付いた。
- ・パートナーとの性的同意を紅茶にたとえた話がものすごくわかりやすく印象に残った。境界線の話では過去の出来事を思い出して色々考えさせられた。
- ・セックスについて真面目に考えたのは初めてだった。相手のイヤを受け入れることは、相手を大切にしていることという話もあって、そういった考え方を大切にしていこうと思った。
- ・境界線は、目に見えなく、人それぞれ。今まで私は「わからないから、こうだろう」と自分の思いを押し付けていた。そのせいで人を悲しませてきたのに、それにも気づかず「なんか悪いことしたっけ。」とっていた。自分と人はそれぞれ考え方が違うということをしっかり考えないといけないと思った。

～渡辺玲子 略歴～

昭和61年4月から36年間、法務省矯正局所管の矯正施設や地方支分部局等など矯正教育や社会復帰支援の現場で指導にあたる。

そのうち26年間は、女子少年院4施設(愛光女子学園、筑紫少女苑、交野女子学院、沖縄女子学園)、男子少年院2施設(福岡少年院、沖縄少年院)、女子刑務所1施設(麓刑務所)に勤務し、6つの少年院で10年間施設長として施設運営に携わった。

2023年5月10日 衆議院内閣委員会 立憲民主党 堤かなめ

出典：渡辺玲子氏提供『男子少年院における「生命(いのち)の安全教育」について』